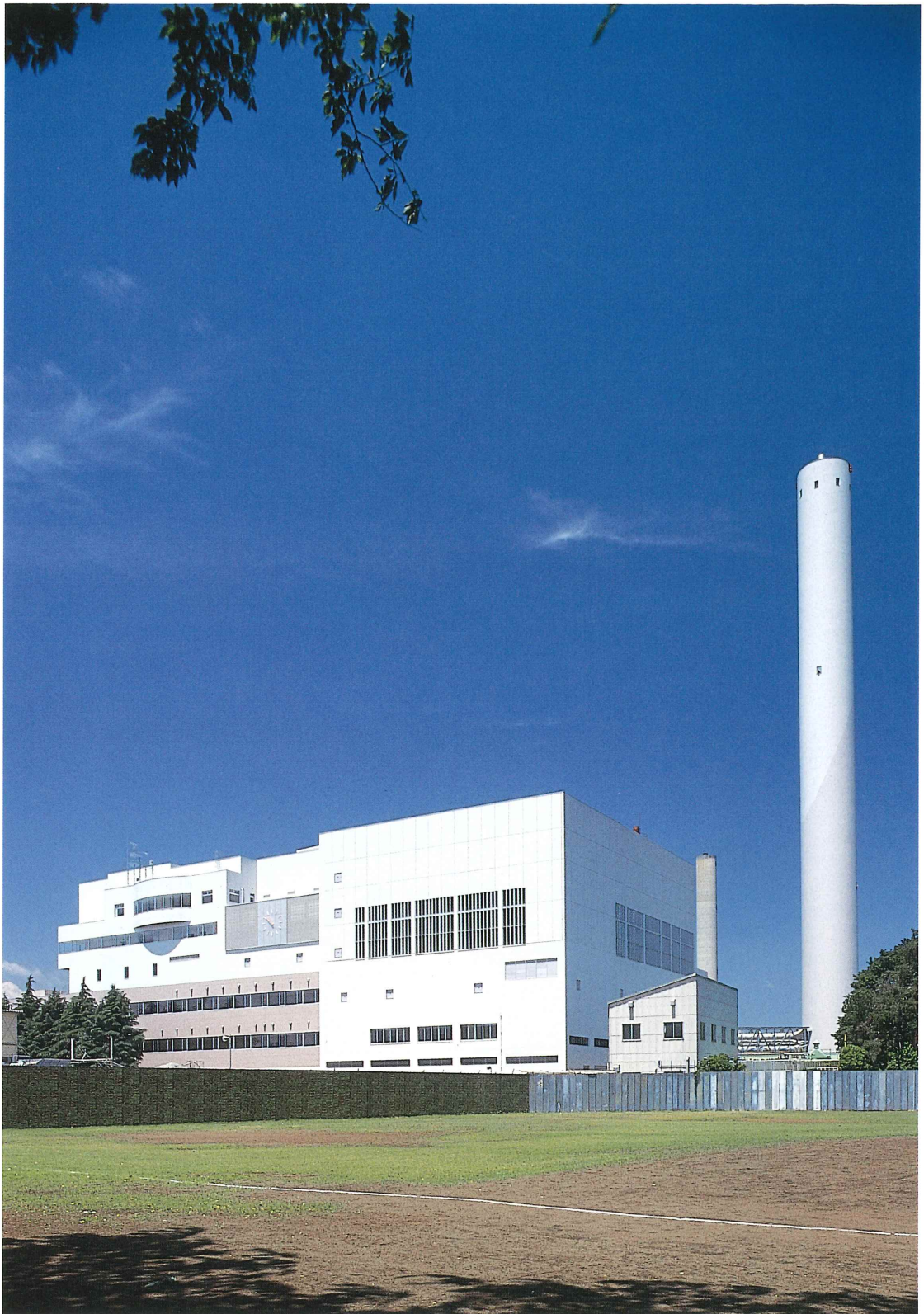


柳泉園組合40年史

柳泉園組合40年史



全容を見せた柳泉園クリーンポート（平成12年5月）

空から見た柳泉園組合の変遷



昭和41年ごろ



昭和46年ごろ

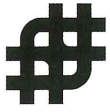


昭和54年ごろ



平成2年ごろ

田無市



田無市市民公園

保谷市



文理台公園

柳泉園組合 関係 4 市

東久留米市



竹林公園

清瀬市



サザンカ



けやき通り

組合設立当時からクリーンポート稼働まで

迷いこんだ子犬

し尿処理場建設反対運動のさなか、場内放送用のスピーカーの前で。後方は、固定炉の登り栈道と職員休憩室。

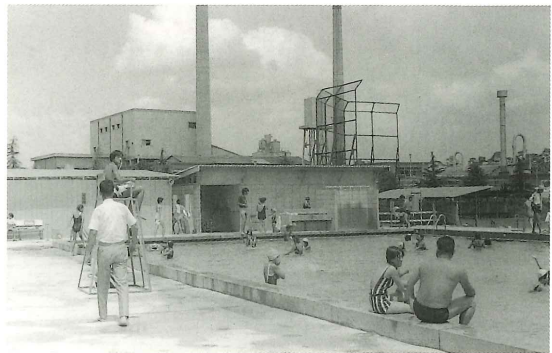


昭和42年ごろの柳泉園組合全景

スポーツ施設は、まだ野球場のみ。当時並木として植えられたヒマラヤスギの一部は、現在も温水プール施設の前で健在である。

完成直後の屋外プール

昭和46年ごろの風景。100円プールは近隣の子も達にも大人気となる。



受付前の花壇

「受付前」は朝礼や市民との接点の場として中心広場の存在であった。四季に彩りを添えてくれたポタンは職員が植え付けたもの。その一部は温水プール脇で健在。



小学生の社会科見学風景

第2工場の搬入路の上で。後方には第1工場が見えている。後日作文を寄せてくれる生徒もいた。

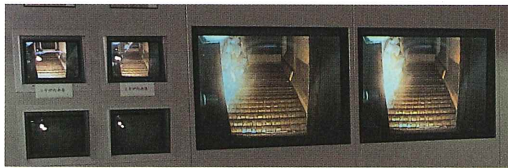
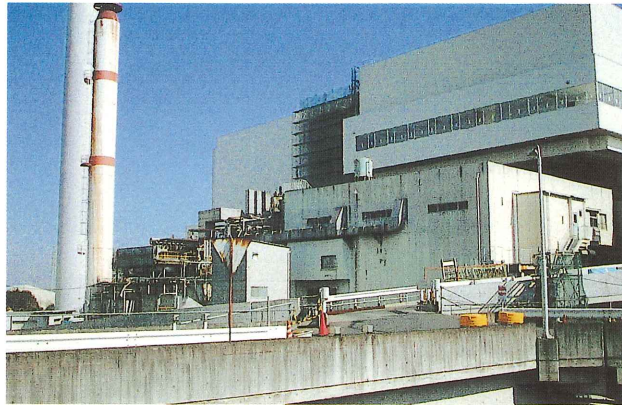


ごみ処理第1工場3階会議室

クリーンポートへの建て替えて、
取り壊す直前の写真。実に25年間、
議場等として柳泉園のあゆみを見つ
めてきた。

焼却場の解体・建設風景

ごみ処理場第1工場が取り壊される
直前。後方クリーンポート（建設中）
との大きさの違いがわかる。



初点火の瞬間を写し出すモニター



クリーンポート火入れ式

平成12年5月、来賓60余名を迎え、
管理者、副管理者、組合議員他が出
席して行われた。



ごみの初搬入を見届ける管理者
(平成12年7月)

未来への展望

クリーンポート 100メートルからの眺め

(平成12年5月)



北東方向を望む



南西方向を望む



ごあいさつ

柳泉園組合管理者

稲葉三男

柳泉園組合の前身、「北部三ヶ町衛生組合」は、昭和35年(1960)9月30日に設立されました。したがって20世紀最後の年(平成12年)、柳泉園組合は創立40周年を迎えました。

なお、柳泉園組合に改称したのが昭和42年3月で、最初の田無、保谷、久留米に清瀬が加わって現在と同じ4自治体構成になったのが45年4月です。念のために申すなら、田無と保谷が42年1月に、また清瀬と久留米が45年10月に、それぞれ市制を施行しました(久留米町は東久留米市に)。そしてこのたび(平成13年1月)田無と保谷が合併して西東京市になり、柳泉園組合も3市構成になります。

今の柳泉園の場所(敷地面積約9.5万平方メートルのうち2/3が東久留米市域で、残り1/3が東村山市域)にゴミとし尿の処理施設を作るにあたっての、当時の関係者のご苦勞は(第1章の記述をお読みいただければわかるとおり)大変なものでした。文字どおりの産みの苦しみでした。

都市生活を営むうえで、市民が毎日排出する大量のゴミやし尿の処理が、絶対必要なことを否定する人はいないでしょう。にもかかわらず、清掃業務に対して世間は、必ずしも暖かい視線を注ぎません。しかもなおかつ、周辺の住民の皆様をはじめとする多くの方々のご理解・ご協力なしには、清掃業務の円滑な遂行は望むべくもありません。

ここ数年のあいだに構成4市とも、汚水下水道がほぼ100%普及しましたので、し尿処理に関するかぎり、柳泉園の役割はしだいに小さくなっています。しかしながら、最終処分場の問題も含め、ゴミの中間処理施設としての柳泉園の役割は、日ごとに大きくなっていると申せましょう。

ときあたかも21世紀の幕あきに当たり、新しいクリーンポート(105t炉3基)が稼働しはじめて、柳泉園もいよいよ新時代を迎えます。ゴミの減量化・資源化をいっそう推進し、地球環境への負荷を最小限にしていくことは、現世代の人類が未来に対して負う重大な責務です。日進月歩する科学技術への十分な目くばりも欠かせません。

このたびの『柳泉園組合40年史』の刊行を機に、先人らが積み重ねてきた貴重な歴史を

ふり返り、柳泉園組合が、名実ともに信頼され愛される施設として発展しつづけるよう、職員ともども努力してまいります。

平成13年1月

柳泉園組合40年史の発刊を祝って

柳泉園組合議会 議長

山田忠昭

柳泉園組合は、創立いらい多くの変遷を経ながら、常にその時々の市民の要請に応えつつ、今日の4市36万市民が期待するごみ処理・し尿処理関係施設として発展、40周年を迎えることになりました。そして、ここに柳泉園組合の40年間の歴史をまとめた「40年史」が発刊のはこびとなり、心から組合議会を代表してお祝い申し上げます。

柳泉園組合は現在、4市住民の要望に応える唯一のごみ・し尿処理の施設として重要な都市施設として位置づけられておりますが、組合創立から今日にいたるまでの40年間の軌跡は、増大する量への対応、多様化する質への対応、環境保全に対する対応、さらに人々の環境意識への対応と、その時々の社会変化に対応した施設整備や事業の展開等数多い課題を克服され今日が迎えられており、先人の関係各位のご努力並びに地域住民の皆さんのご協力に対し改めて深甚なる敬意と感謝を表する次第であります。

さて、こうした状況を経て、平成3年に出された「廃棄物の減量・再生」「廃棄物の適正な処理の確保」を2本柱とする一般廃棄物処理基本計画にそって、平成9年から建設を進めてきた新しい焼却炉(クリーンポート)が完成し、本格稼働するにいたりました。総事業費144億円の巨費を投じて建設したもので、すべての処理工程を集中制御装置で自動操作する近代的な施設であります。議会といたしましても建設に当たって特に公害対策、とりわけダイオキシン類の発生をさせない施設を建設すべく審議検討してきただけに、立派に完成いたしました新工場をまのあたりに見たときに、機種選定当時の関係者のご苦勞が推察され、ひとしお感激をおぼえるものであります。この新工場の完成によって柳泉園組合の中間処理施設としての清掃行政は一段と充実し、住みよい生活環境の確保に大きな威力を発揮するものと確信した次第であります。

今後、組合議会といたしましても、当組合の運営並びに福祉施設計画等については、一層の努力を傾け、市民の要望に応えていきたいと存じますので、周辺住民の皆様におかれましても、柳泉園組合の今後将来にむけて、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願いする次第であります。

そして、当組合に勤務される職員の皆さんにおかれましては、なにかとご苦労が多いと存じますが、36万市民の大いなる期待にそうよう、健康に留意されご活躍されることを願いたす次第であります。

最後に、21世紀を迎えたこの時機に、40年史が発刊されたことはまことに同慶のいたりであり、この記念誌の編纂にご努力いただいた多くの人々に感謝の意を捧げ、お祝いの言葉といたします。

平成13年1月

凡 例

- 1 本書は「Ⅰ 通史」「Ⅱ 部門史」「Ⅲ 資料」の3編で構成した。
- 2 記述の対象は、原則として平成12年10月までとした。本文中で「現在」という場合は、この時点を指している。
- 3 年号は原則として元号を用い、必要に応じて()内に西暦を記入した。
- 4 記述にあたっては、現代仮名遣い・常用漢字を原則としたが、専門用語などについては常用漢字にない漢字も適宜使用した。
- 5 引用資料は横書きに統一し、表記は原文どおりを原則とした。ただし、明らかな誤字・脱字については修正を施した。
- 6 本文中の法人名・組織名は、原則として記述されている時点の名称とした。人名の一部については敬称を省略した。
- 7 数値については、記述内容の性格により、可能な限り細かく表記した場合と、「約」を付して概数で表記した場合がある。
- 8 株式会社、財団法人等は(株)・(財)等に省略した。
- 9 記述にあたって参考にした文献については、巻末に掲載した。

目 次

口 絵

ごあいさつ……………柳泉園組合 管理者 稲 葉 三千男

柳泉園組合40年史の発刊を祝って……………柳泉園組合議会 議長 山 田 忠 昭

凡 例

I 通 史

第1章 組合創立 昭和35年～昭和40年 ……………3

第1節 概 説 ……………3

第2節 組合設立前の北多摩郡3町とごみ・し尿処理 ……………4

1. 保 谷 町 ……………4

2. 田 無 町 ……………5

3. 久 留 米 町 ……………6

第3節 北部三ヶ町衛生組合の設立 ……………8

1. 組合設立の時代背景 ……………8

2. 組 合 設 立 ……………9

3. 組織と原始規約……………10

第4節 ごみ焼却場(固定炉)の建設と業務開始 ……………12

1. ごみ焼却場の建設……………12

(1) ごみ焼却場建設予定地……………12

(2) ごみ焼却場の建設……………13

2. 初期のごみ処理作業……………14

第5節 し尿処理場建設問題……………15

1. し尿処理場建設計画の背景……………15

2.	し尿処理場建設計画	16
(1)	処理場建設への3町合意	16
(2)	設置反対運動の始まりと組合格約の改正	17
3.	建設計画の変更と設置反対運動	19
(1)	新たな建設予定地	19
(2)	し尿処理施設設置反対共闘会議の反対闘争	20
(3)	組合新体制と野火止地区の再浮上	21
(4)	三地区反対同盟の結成	22
(5)	「指田構想」の発表	23
(6)	野火止地区への建設決定	24
(7)	工事着手と反対運動の展開	26
4.	収束への動きと合意成立	29
(1)	久留米町長の建設同意	29
(2)	合意成立	30
(3)	用地の買収と出水川の改修	31

第6節 し尿処理場の稼働開始と業務体制の確立 32

1.	し尿処理場の建設	32
2.	初期のし尿処理作業	33
(1)	酸化処理法	33
(2)	処理作業	33
3.	「北部三町衛生組合」への改称	34

第2章 4市体制の確立 昭和41年～昭和46年 35

第1節 概 説 35

第2節 2町の市制施行と組織の改編 36

1.	田無市・保谷市の誕生	36
2.	「柳泉園組合」への名称変更	36
3.	組織の改編	37
(1)	指田管理者の逝去と藤井管理者の就任	37
(2)	事務所の位置変更と助役制の導入	37

第3節 施設拡充へ	38
1. 連続式機械炉(タクマ炉)の建設	38
(1) 建設の背景	38
(2) 連続式機械炉の選定と建設	39
2. し尿処理施設の増設	40
(1) し尿処理第2工場の建設	40
(2) し尿処理第3工場の建設	41
第4節 環境整備事業への取り組み	42
1. 環境整備構想	42
2. 組合営野球場の建設	42
3. 組合営プールの建設	42
第5節 清瀬町の組合加入と4市体制の確立	43
1. 清瀬町の組合加入	43
(1) 加入の経緯	43
(2) ごみ焼却施設「清柳園」の組合施設編入	44
2. 東久留米市・清瀬市の誕生	45
第3章 施設の多様化と処理の進展 昭和47年～昭和55年	46
第1節 概 説	46
第2節 ごみ処理施設の多様化	47
1. 粗大ごみ処理施設の建設	47
(1) ごみの多様化と粗大ごみ	47
(2) 粗大ごみ処理施設の建設	48
(3) 粗大ごみの処理工程	49
2. 新方式のごみ処理施設(湿式炉)の建設	49
(1) ごみ処理第1工場(湿式炉)建設の背景	49
(2) 新方式(湿式炉)の採用と建設	50
(3) 湿式炉における処理工程	51

第3節	し尿汚泥コンポスト化への取り組み	53
1.	余剰汚泥の処理法研究へ	53
2.	コンポスト(堆肥)化へのアプローチ	53
3.	し尿汚泥コンポスト施設建設へ	55
第4節	付帯設備の整備・拡充	57
1.	ごみ処理施設の付帯設備の整備	57
(1)	清柳園ごみ焼却施設への電気集塵器の設置	57
(2)	排水処理設備の設置	57
2.	し尿処理施設の付帯設備の整備	58
(1)	脱臭装置の設置と増設	58
(2)	前処理設備の設置	59
第5節	環境整備事業の推移	59
1.	テニスコート、バレーコートの設置	59
2.	環境整備課の設置	60
第6節	組織改編と事務局の整備	60
1.	管理者の交代	60
2.	助役制の変更と事務局の明確化	61
第4章	ごみ処理の新展開 昭和56年～昭和63年	62
第1節	概 説	62
第2節	ごみの最終処分問題の推移	63
1.	最終処分問題の浮上	63
2.	砂利穴問題の推移	64
(1)	羽村町・瑞穂町の砂利穴	64
(2)	砂利穴問題と当組合関係4市の動向	64
①	廃棄物終末処理対策協議会の設立	64
②	「不動産仮処分命令」申請と砂利穴の断念	65
3.	処分地の変遷	67

4.	東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合と谷戸沢処分場	68
(1)	東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合への4市の加入	68
(2)	谷戸沢処分場の埋立開始と規約変更	69
第3節 ごみ処理第2工場の建設		70
1.	建設の背景と計画の基本方針	70
2.	周辺住民への対応と協定書締結	71
(1)	問題の指摘と建設計画への反対表明	71
(2)	再折衝と協定書締結	74
3.	ごみ処理第2工場の建設	77
(1)	ごみ処理施設機種選定協議会の設置	77
(2)	施設規模の修正	78
(3)	施工業者決定と施設の建設	78
4.	施設の特徴とごみ処理工程	79
(1)	施設の特徴	79
(2)	ごみ処理工程	80
第4節 既設ごみ処理施設の改造		80
1.	湿式連続機械炉の改造	80
2.	粗大ごみ処理施設の改造	81
(1)	第1回改造	81
(2)	第2回改造	82
第5節 環境整備の流れと温水プール建設		82
1.	柳泉園温水プールの建設	82
(1)	建設への過程	82
(2)	建設とオープン	83
2.	テニスコートの増設	84
第6節 組合内の動向		85
1.	管理者の交代	85
2.	広報誌・記念誌の発行	85
(1)	「柳泉園NEWS」の発刊	85
(2)	「25年のあゆみ」の発行	86

第5章 減量化・再資源化の流れに沿って 平成元年～平成6年87

第1節 概 説87

第2節 リサイクルセンターの建設とTAMAらいふ2188

1. ごみの減量化・再資源化の流れとリサイクルセンター建設計画88
 - (1) ごみの減量化・再資源化88
 - (2) リサイクルセンター建設計画90
2. TAMAらいふ21と広域分別収集・処理モデル実験93
 - (1) TAMAらいふ2193
 - (2) 広域分別収集・処理モデル実験94
 - ① モデル実験の概要と体制94
 - ② 搬入条件の決定95
 - ア 受入品目(収集する品目)95
 - イ 受入基準(搬入の基準)96
 - ウ 統一コンテナ96
 - ③ 資源回収業界との調整96
 - ④ モデル実験の成果98
 - ア 分別収集によるごみ量の推移98
 - イ 資源化量の推移99
 - ウ モデル実験の総括100
 - (3) 他部門への参加101
 - ① リサイクル巡回博物館・フリーマーケットの開催101
 - ② 先進都市定点観測隊への参加101
3. リサイクルセンターの建設102
4. リサイクルセンターの処理工程103

第3節 東村山市との広域化問題の経緯104

1. 広域化の発端と広域処理検討委員会の設置104
2. 「広域化基本計画報告書」の作成105
 - (1) ごみ処理施設計画106
 - (2) し尿処理施設計画107
3. 広域化問題の終結107

第4節 各種計画の流れ	108
1. 基本計画策定への試行	108
2. 第一次・第二次五カ年計画の策定	109
(1) 第一次五カ年計画	109
(2) 第二次五カ年計画	109
3. 「一般廃棄物処理基本計画」の策定	110
(1) 資源化・減量化に関する目標	110
(2) 中間処理に関する目標	111
① ストックヤード(資源物置場)の整備	111
② 焼却処理施設の整備	111
③ 粗大ごみ処理施設の整備	111
第5節 周辺自治会との協議	111
1. 道路新設に関する協議の経緯	111
2. 「柳泉園組合周辺自治会協議会」の設置	113
第6節 組合内の動向	114
1. 管理者の交代	114
2. 規約の変更	114
第6章 新ごみ処理施設の建設とごみ・し尿処理の明日 平成7年～	115
第1節 概 説	115
第2節 新ごみ処理施設の建設	116
1. 新ごみ処理施設建設計画の背景	116
2. 環境影響評価手続きと意見への対応	117
(1) 当初計画と環境影響評価書案の提出	117
① 当初計画	117
② 環境影響評価書案	118
ア 環境影響評価の概要	118
イ 環境保全と公害防止対策	119
③ 評価書案に対する意見と当組合の見解	119

(2) 施設計画の修正と環境影響評価書案の変更	121
① 施設計画の修正(第1次)	121
② 施設計画の修正(第2次)	121
③ 評価書案(事業計画変更後)に対する意見と当組合の見解	122
(3) 周辺自治会との協議と事業内容の再変更	123
① 要望への対応	123
② 事業内容の変更と予測・評価	124
(4) 環境影響評価書の提出	124
① 環境影響評価書	124
② 従来からの変更点	126
3. 新ごみ処理施設の建設	127
(1) 施設整備計画と廃棄物処理基本計画	127
(2) プラントメーカーの選定	128
(3) 建設計画の概要	129
(4) 灰溶融設備からエコセメント化へ	130
① 灰溶融設備建設のとりやめ	130
② 基本計画の変更	131
(5) 「柳泉園クリーンポート」竣工へ	131
第3節 し尿処理施設の更新	132
第4節 その他の動向	134
1. 「柳泉園組合廃棄物処理に関する懇談会」の設置	134
(1) 第1回設置	134
(2) 第2回設置	136
2. 西下里遺跡の発掘調査	137
3. 福祉施設建設へ	139
4. 管理者の交代	140
第5節 柳泉園組合の現在とごみ・し尿処理の明日	140
1. 柳泉園組合の現在	140
(1) 事業	140
① ごみ処理事業	141
② し尿処理事業	141
③ 環境整備事業	141

(2) 組 織	142
① 議 会	142
② 執行機関	142
2. ごみ・し尿処理の明日	143

II 部門史

第1章 ごみ処理	147
第1節 バッチ式固定炉によるごみ処理	147
1. バッチ式固定炉の採用	147
2. 建設と施設の概要	147
3. 固定炉におけるごみ処理作業	148
(1) 処理工程	148
(2) 作業の状況	149
第2節 連続式機械炉(タクマ炉)によるごみ処理	150
1. 連続式機械炉の導入	150
2. 建設と施設の概要	151
3. タクマ炉におけるごみ処理	153
第3節 キルン式機械炉(清柳園炉)によるごみ処理	154
1. 清瀬町からの移管	154
2. 施設の概要	154
3. 清柳園炉におけるごみ処理	155
4. 電気集塵器の設置	156
第4節 ごみ処理第1工場によるごみ処理	156
1. 湿式連続機械炉と回転燃焼式ストーカ炉	156
2. 湿式連続機械炉の導入	157
3. 建設と施設の概要	158
4. 湿式炉におけるごみ処理	159
(1) 処理工程	159
(2) 排ガス処理設備の増設と爆発事故	161
① 塩化水素除去装置の設置	161
② 爆発事故	162

5. 回転燃焼式ストーカ炉への改造	162
6. ごみ処理第1工場におけるごみ処理	165
第5節 ごみ処理第2工場によるごみ処理	166
1. 建設計画	166
2. 建設と施設の概要	166
3. ごみ処理第2工場におけるごみ処理	169
第6節 粗大ごみ処理施設によるごみ処理	171
1. 設置の背景	171
2. 建設と施設の概要	172
3. 粗大ごみ処理施設におけるごみ処理	173
4. 施設の改造	175
(1) 第1回改造	175
(2) 第2回改造	177
第7節 リサイクルセンターによる処理	178
1. 計画の背景	178
2. 広域分別収集・処理モデル実験	179
3. 建設と施設の概要	180
4. 処理工程	181
第2章 し尿処理	184
第1節 し尿処理第1工場による処理	184
1. 導入経過	184
2. 建設と施設の概要	184
3. し尿処理工程	186
4. 初期の処理作業	188
第2節 し尿処理第2工場による処理	189
1. 導入経過	189
2. 建設と施設の概要	190

第3節	し尿処理第3工場による処理	191
1.	導入経過	191
2.	建設と施設の概要	191
第4節	付帯設備の設置	192
1.	脱臭設備の設置および増設	192
(1)	脱臭設備の設置	192
(2)	脱臭設備の増設	193
(3)	脱臭の流れ	194
2.	前処理設備の設置	195
第5節	し尿資源化への取り組み	196
1.	余剰汚泥処理からコンポスト化へ	196
2.	余剰汚泥脱水装置	196
3.	コンポスト用加圧脱水装置(グレース脱水機)	196
4.	余剰汚泥処理走行ろ布型脱水設備(RF脱水機)	197
5.	し尿汚泥コンポスト施設	197
6.	コンポスト用汚泥脱水設備	199
第6節	前処理・脱水方式によるし尿処理	200
第3章	環境整備と組合営施設	205
第1節	柳泉園組合と環境整備	205
第2節	体育施設	206
1.	野球場	206
2.	屋外プール	206
3.	テニスコートとバレーコート	208
4.	温水プール	209
(1)	設置経過	209
(2)	建設と施設概要	210

第4章 分析と研究開発	213
第1節 分析業務	213
1. 分析室	213
(1) 分析室の設置	213
(2) 分析業務	213
(3) 分析機器	215
2. 分析項目の多様化	215
第2節 研究開発	217
第5章 議会と事務局	221
第1節 議会	221
第2節 事務局	223
1. 初期事務局	223
2. 組織の拡大と規約上の明確化	224
3. その後の組織改正	225

Ⅲ 資 料

歴代管理者	229
歴代副管理者	229
歴代助役	230
歴代収入役	230
歴代監査委員	231
歴代議会議長	232
歴代議会副議長	232
歴代議会議員・田無市	233
保谷市	234
東久留米市	235
清瀬市	236
歴代事務局長	237
年度別職員数	237
年度別決算状況〈歳入〉	238
〈歳出〉	240
関係市の年度別分担金および負担金	242
関係市の人口推移	243
ごみ搬入量の推移〈総量〉	244
〈可燃ごみ〉	245
〈不燃・粗大ごみ〉	246
資源化物回収量の推移	247
し尿搬入量の推移〈総量〉	248
〈し尿〉	249
〈浄化槽汚泥：単独型〉	250
〈浄化槽汚泥：合併型〉	251
〈浄化槽汚泥：公社〉	252
温水プール施設利用者の推移	253
処理施設規模および事業費等(起債事業)〈ごみ処理関係〉	254
〈し尿処理関係〉	256
〈厚生福祉関係〉	258
柳泉園組合議員就任期間一覧	260

グラフ資料	〈関係市の人口推移〉	262
	〈ごみ搬入量の推移・総量〉	263
	〈し尿搬入量の推移・総量〉	264
	〈温水プール施設利用者の推移〉	265

柳泉園組合同規約		267
----------	--	-----

年 表		271
-----	--	-----

参 考 文 献

取材協力者一覧

柳泉園組合40年史企画委員会委員

編 集 後 記